

# せっかち 園長の ひといごと

2016、5、31

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹



今年の4月から入園したお子さんも、**もちろん個人差はありますが**、だいぶ園の生活に慣れてきたようです。

**個人差**・・・園生活に慣れる慣れ方は、本当に一人一人違います。ワッと泣いてすぐにケロッと慣れてしまう子、最初は周りが見えずに目の前の楽しさだけでニコニコ登園していた子が、ある日突然泣き出したり（周りが見えてきたから）・・・。

同じように後から泣く場合でも、初めは緊張していて泣くことすらできなかった子がちょっと慣れたころ泣き出すこともあれば、極端な話、3歳で入園した子が一年たった年中組になったころ泣き出すこともあったり。

**園の生活に慣れるプロセス（過程）は、トンネルのようなもの。**長いトンネルもあれば短いトンネルもある。まっすぐなトンネルもあればクネクネ曲がったトンネルもある。すぐにトンネルがあるかもしれないし、入園してしばらくたったところでトンネルがあるかもしれない。でも、どの子どもにも必ずトンネルがある。これが園に慣れる慣れ方。**我が子とよその子を比較しないでくださいね。**

バスと保育室の行き来で、もり組・5歳の子どもたちが3歳のお子さんの手をとってサポートしてあげている姿は、とても微笑ましかったです。またしばらくの間、子やぎと母やぎが保育室の近くに来ていて、野菜のご飯をあげられるようにもして、子どもたちが喜んで園に慣れるような環境を作りました。

それから、0・1歳のお子さんの入り口を家庭的にしたことで、初めての場所で暮らすことの抵抗が少しでも和らいだとしたら、私としてもうれしい限りです。

**お子さんが園に慣れるもう一つのポイント・・・お子さんの園生活を、ご家族の皆さんも、可能な範囲で一緒に楽しんでくださいね。**

そしてお願いです・・・

新入園児の親御さんだけでなく進級児のご家族の皆さんも、お子さんの新たな園生活のスタートで不安があったら、**すぐに**、学年主任や施設長（新井）、副園長（長島）までお声掛けくださいね。**最大のポイントは、不安を小さい時に解決することです。**

## はじめの話題。子どもに「お友達と仲良くしてね！」と言うのなら、親は・・・

皆さんは我が子に、友だちと仲良く付き合ってもらいたいと願いますか？・・・そう願う人が多いのではないのでしょうか。

認定こども園が全国的に増える中、ときどき聞くのが「1号と2号\*の親が派閥を作って仲が悪い」ということ。

(\*1号認定→新制度になる前の幼稚園籍、2号認定→同じく保育園籍)

先日、ある保護者の方とお話ししていたら、(どの園とは聞きませんでした)佐野市内のある認定こども園では親同士で派閥があって、役員決めなどで大変だということを知りました。佐野でもそういうところがあるのだな、と思いました。

**本園では、** そのようなことってありますか？ 私の知る限り、ありがたいことに、そのような話は聞いたことがありません。他園の悪口を言う気もないし、自園だけよければいいとも思いませんが、私はメイプルキッズ・あかみ幼稚園の園長で本当によかったです。けっしてキレイごとには言いませんが、本園では親同士、あるいは保護者の皆さんと私たちとで何か問題があっても、話し合っ解決することが多いと感じています。違う人間がたくさん集まっているので、何も問題が無いわけではないと思うのです。**しかし大切なのは、子どもたちのために、そのことをちゃんと解決しようと、話し合いなどの努力をすること。**もちろん簡単に解決できる時ばかりではありませんが、問題を放置したり、声が強い人の言うなりになり、そうでない人が我慢してしまうのは、やはり子どもたちのためにならないと、私は思います。

### なぜ本園では親同士の関係が良好なのか考えてみました・・・

本園では ①卒園するまでに子どもたちに『合意の形成』☆を願うので、大人たちもそのお手本にならねばと思う。

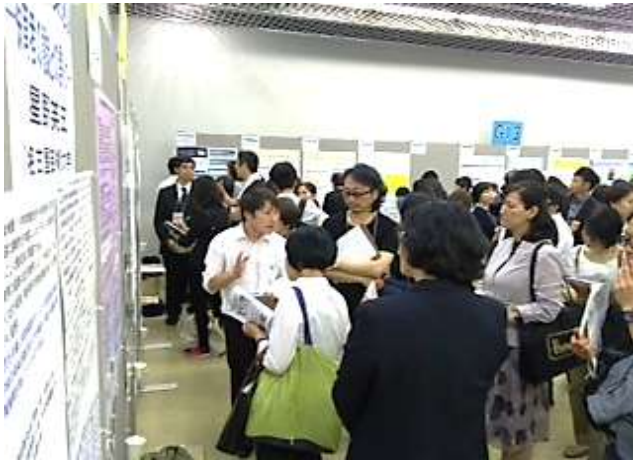
(☆合意の形成→どちらかが我慢するのではなく、自分も相手も大切にすること)

②20年以上続く夏祭りで、3歳以上ではありますが、クラスの保護者全員で模擬店のお店番をやり、顔見知りになり、仲良くなる(共同作業が、気心知れる最善の方法)。

③これも0・1・2歳の保護者は子どもが小さくて大変なので3歳以上ではありますが、保護者会ではいろいろな役や係の中に「サポート係」★というのがあって、全員が一枚岩で保護者会の活動をしている。

(★年に一度、土曜も含めてその方の都合で1~2時間の作業をしていただく 絵本の修理や除草作業など)

サポート係が始まったのは、保護者の皆さんの提案からでした。親同士の中に、役・係をやる人とやらない人で溝ができるのは嫌だと。私は、保護者・親の皆さんからこのような動きが出たのがスゴイ！ と思います。 やっぱり、本園の園長でよかったです。



## ここで一つ、報告です。日本保育学会です。

左の写真は、第69回日本保育学会（東京学芸大学）のポスターセッションで、高橋雄貴（バンビーニ主任）が、あの大豆生田先生に、本園の午後の保育の様子を、熱く語っている（発表している）ところです。HP.にもアップしました。

本人（高橋）が言うには、熱く語り過ぎて、だいぶ唾を飛ばしたそうですが、身長差があるので、大豆生田先生の顔には飛ばさなかったそうです。

以前にも言いましたが、本園の午後の保育（3・4・5歳のバンビーニ）では、クラス担任と主任を配置し、ゆるやかなカリキュラムをもとに保育を行っています。

しかし、以前も紹介した無藤隆先生（国の子ども・子育て会議の会長・白梅学園大学教授）は、幼稚園の預かり保育（午後の保育）の質を上げなければと言っていました。それは、朝から保育している担任の先生が当番で預かり保育を担当したり、ビデオを見せて時間を過ごしたりなど、ただ子どもを預かって見ているだけのレベルの預かり保育を改善しなければと、警告していたのです。それもあって、これも以前にも言いましたが、近いうちに幼稚園教育要領や認定こども園教育・保育要領などの国の指針が改訂されます。

↓無藤隆先生のノート（FB 4/27）

**幼稚園教育要領等の構成の見直し**（前略）…幼稚園教育要領等固有の主な構成の見直しについては、以下のとおりです。

幼児の生活を見通しを持って把握し、幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメントを充実する観点から、教育課程や**預かり保育を含め、登園から降園までの幼児の生活全体を捉えた全体的な計画の作成を幼稚園教育要領等に位置付ける**こととします。…（後略）

## さて次に、ファミリー保育体験日（3・4・5歳）、保育参加（0・1・2歳）について

先日（5月21日）はファミリー保育体験日でした。参加された皆さん、お疲れ様でした&ありがとうございました。また6月25日には保育参加（0・1・2歳）があります。楽しみです。さてここで、このような**保護者・親が参加する行事があると、なぜいいのか**を考えてみました。ファミリー保育体験日や保育参加など、**保護者・親が参加する行事があると、なぜいいのか？**……

①自分の親や家族が参加すると、なによりも、子どもが安心する。

→お家の人も楽しんでいるから、この場所（この園）は、いいところなんだ、と。

↓続く

- ②そこで親や家族と一緒に体験した活動が好きになり、日々の保育の中で、その活動に意欲的になる。  
→我が子が園生活で、より活発に遊べるようになり、保育の効果が高まる。
- ③仕事などで忙しい親・家族が、園で子どもの遊びや動物たちに触れ合うことで、リフレッシュする。  
→ビオトープ（木々や小川・池）を散策したり、やぎに葉っぱをあげたりして、リラックス。
- ④園生活での我が子の遊びや生活を見て、親は自分の子ども時代を思い出し、人生を二度楽しんでいるような気持ちになれる。→親自身の人生が豊かになる。



などなど、いろいろ考えられます。ぜひ、それぞれ皆さんのペースややり方でいいので、お子さんの園生活を一緒に楽しんでくださいね。

## 最後に、「才能をダメにする幼稚園とは」！？

今回の最後は、先ほど紹介した無藤隆先生の発言から・・・（部分の紹介なので、ぜひ全文を見てみてください・・・FB 5/22）  
才能をダメにする幼稚園とは。

例えば、

絶対音感を育てるが、音楽の良さには触れない。

逆立ちをするが、鬼ごっこなどの機敏な動きを育てない。

単語の繰り返しをするが、言葉の意味を把握させない。

絵本を一人で読み飛ばさせ、どの語も絵と文章から意味をとらえるというやり方を覚えさせない。

（中略）

私は実用的な露骨な助言が好きなので（とって保護者向け講演はそもそもしませんが）、もし親に講演するとしたら、

「そういうところに行っても、よい大学はムリだと思いますよ。トーダイ？、とんでもない。それどころか、あなたのお子さんを勉強を苦手にさせるそういう保育をうけさせたら、小学校4年生くらいから困ることになりますよ。」とか言うかな。



ちょっとショッキングな発言ですが、〇〇〇〇式みたいなものが、マスコミなどで話題になるのを警戒しての発言だと思います。皆さんは、どうお感じになりますか？

最後にもう一度、無藤先生の発言です。・・・親の自業自得ではありますが、もうちょっとまじな選択肢を提供したいものです。